

ESAT-Jの都立高入試活用の問題点

2024/12/04

「入試改革を考える会」代表
武蔵大学教授（専門・教育社会学）
大内裕和

1. ESAT-Jの試験監督からの内部告発 —会場責任者と副責任者との「不正」行為—

ESAT-Jの試験監督を行った方（仮にBさんとする）から、私（大内裕和）に、会場責任者と副責任者との「不正」行為についての内部告発があった。試験監督ご本人からの了承を得られたので、告発内容を発表する。Bさんからは会場責任者と副責任者による不正の実態を「隠し撮り」した動画が提供された。

ESAT-J試験監督のBさんからの内部告発の経緯

「中学生英語スピーキングテストの試験監督(本部要員)をした者です。テストの環境(外部委託の絶望的な分業制)はひどすぎて、今年でこの試験を何としても終わらせたいと決意したところだ」とのメッセージがあった。

試験監督Bさんからは試験監督自身の名前・試験会場が明記された書類の写真を大内に送っていただいたので、Bさんが試験監督であったことが確認できた。

試験監督Bさんからの告発の内容

「タブレットの不具合は、会場責任者が自主的に無かったことにすることで、実際より少なく集計されます。」

①各教室試験監督が「試験実施報告書」を試験毎に記入。(「-報告書」には、試験人数、実施にあたり回収した電子機器回収袋(受験生のスマホ等を入れた袋)回収個数、使用タブレット個数、その他試験中の特記事項を書きます)

②「試験実施報告書」を全試験分集める。

③試験運営終了後、「試験実施報告書」を会場責任者が確認して、ここで色々と修正を行います。

④「試験実施報告書」は実試験の状況とは異なる様相を帯びた形で完成

⑤本部に送付される

③の段階で会場責任者と副責任者が一緒になって、タブレットの不具合報告数を0に変えたり、スムーズな試験運営だとみなされない様な特記事項は、消しゴムで消されておりました。会場責任者は報告書の虚偽修正にあたり、私(本部要員)と副責任者に「変なこと書

かれてたら消そう！消させて、私が怒られるから」と苦笑いで言いました。副責任者は「もちろんです！」と返答しておりましたが、私は同意できませんでしたので、音声動画を録音してやろうと決意し、スマホで動画を撮り始めました。

動画は、全て③(④)の段階で報告書修正をしている際の声です。1つ目は、電子機器回収袋の回収個数を恣意的に修正する、ずさんなやりとりです。これ自体は受験生に悪影響がないかもしれませんが、こういったずさんな試験実施運営だったと見ていただければ幸いです。

2つ目は、タブレット不具合をもみ消すやりとりです。会場責任者の「不具合0、是が非でも0」という発言も入っております。

3つ目は、トラブルが「余計な事」として消しゴムで無かったことに消されるやりとりです。不具合タブレットのお話も出てきており、不具合タブレットが少なくない数存在したことの証左になると思っております。

動画音声の文字起こし（大内裕和作成）。

動画1

発言者1「そうだね。」

発言者2「10倍って何だ？」

発言者1「最終封筒大はさ。どうでもいいよね。これをさ27か26だよ。20～？まあどっちでもいいや。27にしとこう。」

発言者2「2個持ってたってことにしましょう。」

発言者1「それはさあ。みんなで探しても合わない。」

動画2

発言者1「タブレット。不具合タブレットゼロ。是が非でもゼロ」

同時にタブレット不具合の記録を発言者1が消しゴムで消す音。

動画3

発言者1「これ「本部の方が別教室で」、とか余計なことを書かないでいただきたい。ほんとほんと」

同時に書かれた記録を発言者1が消しゴムで消す音。

発言者2「これ多分。電源切れないやつでしょ？」

発言者1「いや。違う、違う、違う。私が最初に2個抜いた分。」

発言者2「ああじゃあ」

発言者1「で、不具合タブレットは多分。タブレット。」

同時に発言者1がトラブルを「余計な事」として消しゴムで消す音。

発言者2「なんでタブレットが減ってんだ？」

発言者1「ふふふふふ（笑）」

発言者2「ははははは（笑）」

発言者3「不具合タブレットよく見るとめっちゃ多いじゃないですか。」

発言者2「誰。誰。」

この動画から明らかになったこと

ESAT-Jについて極めてずさんな試験監督業務の実態。しかも、各試験監督が記入した「試験実施報告書」を会場責任者と副責任者が恣意的に「改ざん」という「不正」が行われている。これでは試験の実態が本部に伝わらない。「不正」を行った会場責任者と副責任者は試験監督として失格である。また、このような試験監督によって行われているESAT-Jの運営は、入試活用できる水準でないことは明らかである。

「試験実施報告書」が改ざんされていることが明らかになった以上、東京都教育委員会の「試験は適切に実施された」という主張は覆された。今回の内部告発の内容は、ESAT-Jを実施した東京都教育委員会とブリティッシュ・カウンシルの信頼が完全に失われることを意味する。東京都教育委員会とブリティッシュ・カウンシルは、この改ざんについてただちに記者会見を実施し、受験生・保護者・都民に謝罪すべきである。そして、なぜこのような改ざんが行われたかの原因究明と都民への説明を行うことが必要である。

会場責任者と副責任者による「不正」行為がなされた以上、東京都教育委員会はESAT-Jの都立高入試活用を中止すべきである。

2. 大内裕和によるESAT-Jの受験生へのインタビュー

ESAT-Jの試験終了直後に大内裕和がESAT-Jの受験生(仮にCさんとする)に直接会って、対面でインタビューを行った。

インタビューの文字起こし(大内裕和作成)

大内裕和「今日のスピーキングテストの状況について教えてください。試験の最中に周りの生徒の解答する声は聞こえましたか？」

受験生Cさん「はい」

大内裕和「その声が聞こえた程度というのは、単語とか表現など答えのヒントになるようなものまで含まれていましたか？」

受験生Cさん「ヒントはありました。単語とかちゃんと聞こえてて」

大内裕和「たとえば今、具体的に思い出せる単語とかありますか？」

受験生Cさん「えー。I think restaurant is a good way～ っていう。そういうのが聞こえたり・・・。」

大内裕和「そういう答えにつながっちゃうような音が聞こえたんですね」

受験生Cさん「あつ。はい。」

(中略)

大内裕和「もう一度ね。さっきあの～試験の最中に他人の声が聞こえたというのがありましたよね。どんな声が聞こえたか。具体的にどんな単語、どんな表現が聞こえたのかを言ってくれますか？さっき少し聞こえにくかったから」

受験生 C さん「あつ。えー。I think restaurant (is) a good way to (ここから後は聞こえにくい) make our city better」

大内裕和「それは、どの問題の解答のヒントになりましたか？」

受験生 C さん「Part B」

大内裕和「わかりました。どうもありがとうございます。」

受験生 C さん「ありがとうございます」

受験生 A さんのインタビューから分かったこと。

東京都教育委員会が繰り返し述べてきた「音は聞こえるが解答に影響はない」という主張を明確に覆す証言。受験生本人が、他人の声が解答のヒントとなったことを明言した点、そして聞こえた音を単語だけでなく、ほぼ文章で再現できた点はこれまでになかった貴重な証言。またヒントとなった問題が PartB であることも明言している。

これまでの生徒からの声は「オンライン署名」や SNS でのメッセージなど「匿名」のものであったが、今回は大内裕和自身が生徒本人に直接会って、本人の名前も試験会場も把握しており、ESAT-J の受験生であることを確認している。

受験生 C さんの証言は、2024 年 11 月 24 日（日）に行われた ESAT-J が「カンニング可能」であったことを明確に示している。東京都教育委員会の「音は聞こえるが解答に影響はない」「試験は適切に実施された」という主張は、今回の受験生 C さんの発言によって覆されたのであり、ESAT-J の都立高入試活用を中止すべきである。